

■令和4年2月（次）定例記者会見内容

- 1 日 時 令和4年2月1日（火）11：10～11：40
- 2 場 所 市役所本庁舎7階第703号室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、危機管理監、企画部長、教育次長（学）、
危機管理課長、企画調整課長、指導主幹、市長公室長
○酒田記者クラブ11社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、
山形新聞、荘内日報、NHK、YBC、YTS、TUY、SAY）
コミュニティ新聞社、共同通信社（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

- ・特になし

■代表質問

1 北の若を応援する会の3月場所に向けての予定について

記者／北の若関が初場所で8勝7敗と勝ち越しましたが、3月場所に向けて、市長が会長を務めます後援会としての取組みがありましたら教えていただきたい。

市長／まずは、本当に、無事勝ち越してもらって本当にありがたいなと思っております。もう3勝くらいできたのではという思いがあります。土俵で逆転されたのが、2、3番あったと思います。

それはそれとして、素晴らしい活躍で、期待に答えていただけたこと、心から感謝申し上げます。

私としては、北の若関が怪我をしないで着実に勝ち越しを積み重ねていただいて、早く幕内に上がってもらいたいな、そういう思いでおりますけれども、後援会としましては、基本的に、やっぱり大相撲の世界の話なので、八角部屋の関係者の皆さんと相談をしながら、これからどういう後援会として支援、或いは活動をやっていくかについて、調整をした上で進めていきたいなと、このように思っております。

とりあえずは、今回としては、ホームページを立ち上げたいなという思いでございまして、その作業を進めるということ、それから、応援ツアーみたいなものも企画をしないかやいけないかという思いはありますが、ただやっぱり東京場所に限られるんだろうなということで、次の3月場所は大阪場所ですので、ちょっと何か企画というのは難しいかなと思いますけれども、東京場所を想定しつつ、応援ツアーなども組めればいいのかと思っております。今回の初場所では、10数名の有志の皆さんが、バスでツアー組んで行かれたという話は伺っておりますが、応援する会としても、そういう企画をしていきたいなとそんな思いでおります。

あとは、入会者の拡大。現在240名の入会申し込みの状況のようですので、1人でも多くの皆さんから応援する会の方に入っていただきたいなと思っておりますし、そういった方々に対しては、番付表の送付だとか、そういったことは、しっかりと応援する会としては取り組んでいきたいなと、このように思っております。

まずは八角部屋との情報交換をしながら、会としての活動を、より具体的なものを仕立てていきたいなとそんな思いでいるところであります。

記者／ホームページの立ち上げは、いつ頃を目途にされていますか。

市長公室長／今、準備が進んでいますので、今月中にはできるかなと思います。

2 市内のコロナ感染拡大について

記者／今年に入ってから、市内のコロナ感染者が多く見られます。市長としての受け止めと、市独自の経済、或いは観光など様々な分野がございますが、対策の予定はありますでしょうか。

市長／ご存知の通り、昨日までで10万人当たり1週間で242人、酒田で感染者が出ているということで、相当、感染者がいる地域になります。

1月21日から2月20日までということで、まん延防止等重点措置の地域として、山形県から本当に取り組んでいただいておりますけれども、我々緊張感を持って感染拡大防止のために様々な活動をこれからやっていかなきゃいけないのかなと思っております。昨日から飲食店に対しては、市職員が回って、まん延防止等重点措置に対する協力要請ですとか、或いは協力金の手続き等についての情報を提供させていただいております。この期間、大変皆さんにご苦勞をおかけしますが、協力要請をさせていただいております。

そういう意味で、まずは行動自粛について、こういう状況ですので、マスク、それから手洗い、消毒、さらにはゼロ密の実践、こういったものをしっかり徹底していただくように注意喚起をしていきたいなと思っておりますし、当然のことながら、飲食店だけではないのですが、お客さんが入らないという事態はもう否めないわけがございますので、そういった方々に対する経済的な支援対策というのも考えていかなきゃいけないのかなと、そういう思いでおりますが、県の方での協力金でありますとか、県もいろんな支援策を今考えてくださっているようであります。

さらに、国でも事業継続の補助金について、今日あたりから手続きが進むようですので、様々なメニューが多分あるんだろうなと思っておりますが、それに加えて市独自という話については、これから検討していきたいなと思っております。

この感染拡大の状況が、どの時点で収束の方向に向かうのかもちょっとまだ見極められていないということもございますので、それから市の財政状況のこともございます。

具体的にどのような支援が可能かについては、今、関係部局で協議をしている最中ですので、決まり次第、また皆さんの方にご報告申し上げたいと思っております。

記者／なかなか、庄内が突出しており、鶴岡もそうなんですけど、おそらく感染対策等は嚴重にやられていたり、酒田では医療機関でのクラスターも発生した経緯もあって、非常に皆さん気をつけていたかと思うのですが、この庄内の、特に酒田も含めてなんですけど、急増した考えられる要因を、市としてどのように分析されているのでしょうか。もちろん、県の方が分析する主体であると思うんですが、ただ、足元で対策する上でそういったものの必要なのではないかと思うので、どのようにお考えですか。

市長／昨年末にかけてはかなり感染者が少なくなって、ある意味少しオミクロン株というものに対する警戒感がひよっとしたら薄れていったところもあったかもしれない。年末年始がありましたので、里帰りされる方々ですとか、或いは仲間同士での飲食の場で、ひよっとしたら注意力が欠けていた場面もあったのかなというところは感じておりません。

そういった中で、年を超えて、酒田については1月5日以降、感染者が拡大したわけですが、やはりオミクロン株のコロナウイルスの感染力の強さ、こういったものが、今回この酒田の感染者増大に繋がっているのではないかなと解釈はしているところであります。

簡単な接触、或いは飲食を同じテーブルで行ったりとか、その会話を通して感染しやすいウイルス、これがオミクロン株だったのかなということで、第6波はあり得るということは想定をしておりましたがけれども、意外と年明け早く、この地域においても感染拡大したので、すごい感染力ということで、これはもっともって注意をして、日常生活を送らないと、大変な事態になると感じております。とりわけ小学校、保育園の子どもたちから、またご家族に感染をして、そして医療関係者、エッセンシャルワーカーだけでなく、一般の社会人の皆さんにも感染をすることで、社会生活が少し滞ってきている嫌いもありますので、これ以上混乱をしないように、地域を挙げて感染防止に取り組む、或いは感染しないような啓発を我々もしっかりと展開をしていかないと駄目かなと、そんな思いを持っているところです。

具体的には保健所あたりの分析結果を見ないと、はっきりとしたことは言えませんけれども、私の印象としてはそういう捉え方をしているところであります。

記者／現場でいろいろ対策や検査と最初の窓口になるのは、市内クリニックですとか、休日診療所とかですが、現場から何か足りない部分、困っていることで上がっていることはありますでしょうか。

市長／この地域については、本当に医師会の皆さん、それから日本海総合病院の皆さんから、大変骨折りをいただいております。いろいろ子供たちから家族に感染をしたりしますと、そういう医療関係の従事者にも影響が出てくる、或いはPCR検査等をやっている方々にも出勤できないとか、家庭待機とかってということで影響も出てくるということで、大きな社会問題化しつつあるかなという思いを持っております。

そういった意味では、どういう手を講じることでそれが収束に向かうのかと、今手探り状態ではっきりこういう手立てがあると言えない状況ですが、基本的には、地域医療に影響を及ぼさないということが大事かなと思っていますので、今後の対応については、医師会それから日本海総合病院等とも相談をしながら、専門家の皆さんの意見を聞きながら、そして保健所とも連携をしながら、市として取り組んでいきたいなとそんな思いでおります。

記者／改めてなんですが、まん延防止等重点措置ということで、庄内地域、酒田としての受け止めに伺いたい。

市長／まずは、指定をしていただけて、我々としては良かったなと思っています。

やはり酒田で、急速に感染者が拡大したとき、先々週のことですが、私の方で、県の副知事にも直接電話をしたりして、何とかまん延防止等重点措置の指定をしていただきたいということをお願いしておりました。

それは感染拡大防止について、地域を挙げて運動し認識をするということもございますし、それから、やっぱり飲食店等が大変苦しい状況に置かれておりましたので、そこはやはり制度上ある協力金、この制度をしっかりとこの地域で適用してもらうには、まん延防止等重点措置の指定が不可欠だったということもありましたので、そういう面では、我々の願いを聞いてくださって、知事が国に申請をしていただいたってことについて本当にありがたく思っております。

ただ、本来の目的は、やはり感染の収束ということで、そこについて言うとまん延防止等重点措置期間にはなったものの、昨日も45名の感染者が出ているわけで、収束の兆候はまだ出てないので、まん延防止等重点措置が適用になったからといって、安心はできない。先ほど申し上げましたけれども、マスク、手洗い消毒、それからゼロ密、これをしっかりと、地域の皆さんから危機感を持って取り組んでもらうということが、まず第一かなと思っております。

記者／今、検査キットが足りないとかいろいろあると思うんですが、市として今こういうところを要望していきたいなと考えているところがあればお願いします。

市長／検査キットなんかも足りないって話もありましたけれども、やっぱり検査体制の拡充に繋がるように、検査機器の提供は滞ることがないように是非お願いをしたいということが一つです。

それからもう一つは、やはり地元の飲食店等も含めてですけれども、協力金もそうなんですけど、支給を早くしてもらいたいなと。地元の飲食店の皆さんの話を聞くと、やっぱり一刻も待てないような状況です。1月に入ってからずっとお客さんが入らない状況が続いていますので、とにかく支援の経済的給付については、早く手当をしてもらいたいというのが、国、県への要望であります。

あとは、お医者さんが、かなり疲弊、疲れてきているというか、市の場合、今日からになりますけどワクチンの接種も始まるわけです。これも地域の医師会の先生方ですとか、それから歯科医師会、薬剤師会、医療関係者の皆さんから、協力をいただくわけですが、これも入ってきますと相当疲れる、逼迫するというか、そういう状態になりかねないなと懸念しております。

それから、12歳未満の方々への子供たちへのワクチン接種も、本市で言うと3月になると入ってくるので、これもやはり、小児科医の皆さんから協力をいただいて接種しないといけないということで医療関係者への負荷が相当強まるのがこの2月、3月なので、やはりそういった方々への手当の仕方、或いは少しでも負荷が和らげられるような、そういう支援策を、国、県からは是非お願いをしたいなと、そんなような思いを持っているところであります。

記者／先ほど市独自の対策を今後考えていかないといけないという話だったんですが、現時点では未定で、今後検討していきたいとそういうようなニュアンスですか。

市長／私ども、昨年12月に、スピード感と手続きをあまり市民の皆さんに負荷をかけないで支援措置を講ずるという意味で、令和2年3月の上下水道料金相当の何倍っていう金額を、既に口座とかデータを持っているので、基本的に難しい手続きなしに支給するという経済対策をやってまいりました。これまでの通算で、最低でも20万円（1件あたり）は支援しています。飲食店に対しては、そういう措置をやってきています。実は、そういう措置が、今、市の財政でさらに打つことが可能かどうかをちょっと精査しております。一定程度の財政負担をこれから打つとなると、市単費になります。新年度予算について、間もなく今月記者会見させていただきますけれども、決して新年度予算の財政状況がよろしくない状況の中で、今それが打てるどうか。それから、除雪費。この除雪費も、結構今年もきつい状況になっていまして、次また専決の可能性あります。その財政負担が生じるということで、財政の全体の状況を見ながら、どこまで経済対策が打てるのか、今、庁内で検討しているという状況です。県の協力金等を含めた施策、国の対策、そういったものもありますので、そういったものをもう少し分析してみて、市がどの程度までやれるのか。ただ、我々がやる分は、やはりスピード感というのを重視し、それが市直接やる経済対策の強みだと思っているので、どういう仕組みのものができるのか、今検討している最中でありまして、結論が出るまで少し時間いただきたいなと思います。

3 市立中学校の生徒が自死した問題について

記者／昨年2月12日に自ら命を絶った中学生の1周年忌まで、間もなく1年、市長としての現在の所感をお聞かせください。

また、当日に向けて、当該生徒さんへの追悼、遺族との面会などの予定はありますでしょうか。

市長／早いもので1年経つということで、ご家族の皆さんには、本当にお悔やみを申し上げたいと思いますし、もう、こういう悲しい事態は2度と起こしたくないと、そういう思いを改めて強くしているところであります。

2月12日に向けてということではありますが、ご存知の通り先週も教育長が記者会見されたと思いますけれども、現在、第3者委員会、いじめ問題対応委員会の方で調査している最中ということですので、直接私が出向いて、ご両親の前で何かをするということは予定していないところであります。

ただ、今後この対応委員会の動きの中で、4月ぐらいになりますと、教育委員会の方で、その遺族の意見書を添えて私に報告書を出すというふうな流れになっております。その時点で、是非私としては、ご家族の皆さんと面談をさせていただいて、私の思い等をしっかりお伝えさせていただきたいと思っておりますし、その際に、ご家族がどういうお考えなのかをしっかりと受け止めて、その後の市長としての判断、一つの端緒っていうか、きっかけっていうか、それにしていければなという思いを現時点では持っているところでございます。

当日に向けて今何か行動を起こすかということについては、今のところ、そこは対応委

員会の調査の状況を踏まえて、控えさせていただきたいなというのが、私の考えであります。

記者／先週、教育長の記者会見で、最終報告が4月か、もしかしたら5月ぐらいになるかもしれないということでの見通しは言っていたが、その市長に報告するというのは、いわゆる対応委員会の最終段階なのかと思います。

その手続き全て終わった段階で、ご家族と、お会いしたいという意味でよろしいんですか。

市長／会う予定だというと何か決まっているかのようになるが、そうでなくて、あくまでも私の意向として、ご家族とお会いしたいと思っております。

記者／もちろん、先方の意向も確認しないといけないということですか。

市長／はい。

記者／その段階で市長の思いを伝えて、ご家族の気持ちを聞いて、手続き上はもう一段階あるかと思えますけども、そういった部分で当然いろんな判断の部分で参考にするということでしょうか。

市長／そうであります。教育委員会が私に報告する際には、ご家族の意見書も含めてということになっておりますので、それが上がってきたときに、私としては、ご家族と是非お会いして、どういう考えなのか直接お伺いをした上で、市長として、例えば、再調査委員会を立ち上げるという手順が次にぶら下がっていく可能性がありますけれども、そこに向けて動くべきなのかどうかの判断を、そこでしっかりさせていただきたいなどこのように考えております。

■フリー質問

- ・特になし

■その他

- ・特になし